

真名井北稜の下り道で道迷い。バリエーションルートで道が不鮮明のため同ルート下降ができず、1週間後に沢で遺体を発見した。

至川乗山

真名井北稜尾根

赤杭尾根

発見場所

?



登山計画書は作成されておらず、家族に「奥多摩の山に行ってくる」と言って自宅をでた。道迷い後に発見が遅れた要因である。真名井北稜は登山地図では正規の登山道として扱われていない。通常の登山道では飽き足りない登山者が、よりスリリングなバリエーションルートを求めて入り込むことが多くなった。

迷い込んだ尾根は、急に高度を下けている。真名井北稜は、緩やかに高度を下けているため、明らかに違う。地図の先読みがしっかりできていれば、「あれっ！おかしい」と気づくはずである。仮に遭難者は気づいたとしても戻ることはしなかった。これが、道迷い遭難なのだ。「何とかなる」と思っただけではいけない。沢へ下ってはいけないのだ。

道迷い三大地形は「①下りの尾根分岐、②道が急に曲がる、③ピークからの下り」として私が勝手に位置づけ、注意喚起をしているが「①下りの尾根分岐」が今回の事例だ。

特に、バリエーションルートの下りでは、慎重の上にも慎重に行動したい。コンパスの技術も身につけないといけない。